



# ニュースレター

## 第58号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825  
東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F  
株式会社ワールドプランニング内  
NPO法人日本リハビリテーション看護学会  
事務センター  
電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757  
E-mail jrna@worldpl.jp



ごあいさつ

副理事長

上智大学総合人間科学部 石川 ふみよ



2023年5月にCOVID-19は5類感染症に移行され、コロナ禍脱出のような雰囲気はあるものの医療現場では未だインフルエンザとは別格の位置づけとなっています。実習に備えてマスク生活を続けて来たため、実習が一段落した今はマスクの外し時を逸した感があります。とはいえ、学術団体の活動は徐々に対面となってきており、本学会でも今年度の研修会はハイフレックスで実施しようと計画しております。最近、委員会の目的を見直す機会があり、研修委員会の目的の1つに掲げられた「参加型研修会を通して、受講生相互の連携と交流を図る」ということを改めて検討する機会を得ました。オンラインによる研修でも参加者同士で交流することは可能であり、それを機に連絡を取り合って連携した活動に結びつけることもできますが、同じ空気の中で活動を共にすることには及ばないだろうと思います。研修会には、可能な限り現場にご参加いただけることを願います。また、新興感染症はICTの発展と普及をもたらしました。障害を負った人がそうであるように、すべてを元通りにすることが可能でも、必須でもありません。現地に足を運ぶことが難しい場合は、ぜひオンラインでご参加ください。

研修会は、昨年度より、「リハビリテーション看護クリニカルラダー」にある目標を意識しながら展開しております。個々の看護師が、自身の実践能力を向上させる

ために参加していただくことだけでなく、各施設で行っている研修の1つに組み入れていただくことも可能と思われます。規模の小さい施設では、研修会の企画・運営、講師の招聘など容易ではないこともあると思いますので、ぜひ、学会の研修会をご活用ください。

ところで、昨年12月に参加したある学術集会で、看護基礎教育におけるリハビリテーション看護のカリキュラム上の位置づけを調査した研究を拝見しました。10年ほど前に私が調査した時もそうでしたが、「リハビリテーション看護」という科目を開講する大学が少なく、開講していたとしても多くが選択科目であるということのようです。となると、リハビリテーション看護とはどのようなものなのか、的確に学んで看護師になる学生はそれほど多くない、ということになります。某出版社でリハビリテーション看護の教科書を改訂するという話があった際、上記のような状況をふまえ、リハビリテーション看護という科目がなくても使ってもらえるように、エッセンスのみを取り扱うことでコンパクトにすることを検討しました。とはいえ、本当の意味でのリハビリテーション看護の理解と専門性の追求は、臨床現場で行われると思います。この学会がそれに貢献できるように活動を行っていく所存ですので、ぜひ、積極的なご参加とご活用をお願いいたします。



# 第35回 学術大会報告

九州看護福祉大学看護福祉学部 山本 恵子

第35回学術大会は、2024年1月末まで会期を延長し、個人参加460名、施設参加14施設と多数の方にご参加を頂きました。先人たちが残してくれた、そして日々、臨床や教育・研究の中で繰り返しているリハビリテーション看護のコツを次世代に伝えたいという思いで、「伝えよう・活用しようリハビリテーション看護のコツ」というテーマにしました。会期中にオンデマンド視聴をした方から参考になったというお声を頂き、とても嬉しく思いました。それもひとえに、講師の先生方をはじめ、様々な企画にご協力頂きました理事の皆様や学生、そして後援や協賛として支えてくださった方々、学会事務局の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

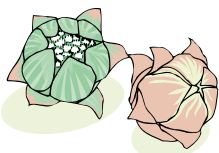
リハビリテーション看護は、対象者の年齢や障害、病期に応じた支援が必要であり、高い個別性が求められます。そのため共通認識が見えにくく、言語化されにくい点もあります。従ってコツは見えにくいものですが、今回の講演の中にもあるようにちょっとした工夫や配慮により、支援の効果は何倍にもなります。そして、看護の一番の評価者は目の前にいる対象者です。その方たちの声を聴きながら、新たなリハビリテーション看護のコツをこの学会を通じて、皆様と創造できたらと思います。第35回大会は終わりましたが、今後も当学会の活動を通して、昔ながらのコツとアップデートしながら伝えたいコツを会員の皆様とともに次世代へとつないで行けたら嬉しく思います。

## 日本リハビリテーション看護学会 第36回学術大会のご案内

学術大会長  
東邦大学看護学部 原 三紀子



第36回学術大会のメインテーマは「ナラティブから始めるリハビリテーション看護-心とからだの声を聴く-」としました。「ナラティブ」は、「物語」、「語り」を意味し、医療の場においても病の経験や意味に着目することの重要性が指摘されています。そこで、本学術大会では、障害をもつ当事者やその家族の理解を深める一つの視点として「ナラティブ」に着目し、障害をもつ人の心とからだの両面から対象の理解を深め、全人的なりハビリテーション看護を実践していくことの重要性を強調したいと考えました。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第36回  
NPO法人 日本リハビリテーション看護学会学術大会

ナラティブから始める  
リハビリテーション看護  
～心とからだの声を聴く～

大会長 原 三紀子  
(東邦大学看護学部)

WEB開催  
LIVE配信 2024年 11月2日・3日  
オンデマンド配信: 12月18日まで

演題登録  
2024年 4月1日(月)～6月20日(木)

	参加登録	会員	非会員
前期	4月1日-9月30日	8,000円	10,000円
後期	10月1日-12月11日	10,000円	12,000円

\*学費(20000円)(大学生を登録)

東邦大学看護学部  
〒142-8502 東京都目黒区東横 1-1-1 株式会社アールエフエフ内  
TEL: 03-6266-7622 Fax: 03-6266-7707 E-mail: jpn@nursing.tokai.ac.jp



# 2023年度 通常総会

NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 2023 年度通常総会は、本年も書面による議決権を行使する方法にて開催し、2023 年 12 月 15 日に議決結果を確認した。正会員総数 1,384 人中、出席者数 1,022 人（議決権行使書：338 人、委任状：684 人）、未回答者 362 人であった。

第 1 号議案：2022 年度事業報告及び収支決算（賛成：1,022 人、反対：0 人）

第 2 号議案：2023 年度事業計画及び収支予算（賛成：1,022 人、反対：0 人）

第 1～2 号議案は、定款第 27 条第 2 項に定める、出席した正会員の 3 分の 1 以上の賛同の要件を満たしたことから、可決した。

## 2022年度 活動計算書

2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日

特定非営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会  
(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
<b>[A] 経常収益</b>		
1 受取会費		10,636,000
正会員受取会費	10,636,000	
2 事業収益		11,178,913
調査・研究・学術大会開催事業収益	10,611,913	
研究会・講演会開催事業収益	567,000	
3 その他の収益		68,611
受取利息	37	
学会誌売上	60,633	
雑収入	7,941	
経常収益計		21,883,524
<b>[B] 経常費用</b>		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		9,075,212
学術大会運営費	6,359,254	
学会誌編集・発行費	1,791,749	
ニューズレター発行費	179,520	
研修会費	520,137	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
①学会誌編集委員会	42,144	
②研修委員会	2,158	
③広報・会員拡大委員会	0	
④調査委員会	0	
⑤教育プロジェクト	0	
⑥将来構想委員会	0	
表彰費	30,250	
選挙管理・運営費	0	
看護系学会等社会保険連合会費	150,000	
雑費	0	
事業費計		9,075,212
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他事務局管理費		6,077,445
会議費	121,220	
旅費交通費	0	
印刷・通信費	499,532	
HP・メールマガジン管理費	616,000	
オンデマンド配信サイト管理費	264,000	
業務委託費	4,571,050	
租税公課	0	
雑費	5,643	
管理費計		6,077,445
経常費用計		15,152,657
当期経常増減額【A】-【B】……………①		6,730,867
<b>[C] 経常外収益</b>		
経常外収益計		0
<b>[D] 経常外費用</b>		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】-【D】……………②		0
税引前当期正味財産増減額①+②……………③		6,730,867
法人税、住民税及び事業税……………④		0
前期繰越正味財産額……………⑤		3,350,095
次期繰越正味財産額③-④+⑤		10,080,962

## 2023年度 活動予算書

2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日

特定非営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会  
(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
<b>[A] 経常収益</b>		
1 受取会費		11,000,000
正会員受取会費	11,000,000	
2 事業収益		5,900,000
調査・研究・学術大会開催事業収益	5,300,000	
研究会・講演会開催事業収益	600,000	
3 その他の収益		71,000
受取利息	1,000	
学会誌売上	60,000	
雑収入	10,000	
経常収益計		16,971,000
<b>[B] 経常費用</b>		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		8,990,000
学術大会運営費	5,300,000	
学会誌編集・発行費	1,800,000	
ニューズレター発行費	400,000	
研修会費	530,000	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
・学会誌編集委員会	100,000	
・研修委員会	300,000	
・広報・会員拡大委員会	50,000	
・調査委員会	50,000	
・将来構想委員会	50,000	
表彰費	50,000	
選挙管理・運営費	200,000	
看護系学会等社会保険連合会費	150,000	
雑費	10,000	
事業費計		8,990,000
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他経費		6,960,000
会議費	100,000	
旅費交通費	100,000	
印刷・通信費	800,000	
HP・メールマガジン管理費	650,000	
オンデマンド配信サイト管理費	300,000	
業務委託費	5,000,000	
租税公課	0	
雑費	10,000	
管理費計		6,960,000
経常費用計		15,950,000
当期経常増減額【A】-【B】……………①		1,021,000
<b>[C] 経常外収益</b>		
経常外収益計		0
<b>[D] 経常外費用</b>		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】-【D】……………②		0
税引前当期正味財産増減額①+②……………③		1,021,000
法人税、住民税及び事業税……………④		0
前期繰越正味財産額……………⑤		10,080,962
次期繰越正味財産額③-④+⑤		11,101,962



## 研修会のご案内

### ＜ケアする力を促進する＞

#### 第1回 排泄自立への援助

期日：2024年7月20日(土) 10:00~16:00

場所：済生会大阪北リハビリテーション病院(予定)

対面のほか、Zoomによる配信を予定

#### 第2回 転倒・転落の防止

期日：2024年9月7日(土) 10:00~16:00

場所：上智大学四谷キャンパス(予定)

対面のほか、Zoomによる配信を予定

\*詳細は、学会HP、メールマガジンでお知らせしています。

### 2023年度合同研修会開催報告

担当委員 森河 琴美

合同研修会は、回復期リハビリテーション病棟協会と本学会が協同企画し開催する研修会です。2018年9月以来、実に5年ぶりの開催となりました。

この間のコロナ禍では、複雑な社会背景を有する高齢者や重症な患者が増加したことで、「これまでのようなりハビリテーション看護が実践できない」とジレンマを抱える声が聞かれるようになりました。一方で、我々には医療を取り巻く厳しい変化にも柔軟に対応していくことが求められています。そのため、リハビリテーション看護を軸とする両団体で再び合同研修会を企画するに至りました。テーマは『急性期⇔回復期⇔在宅 リハビリテーション看護の推進』とし、医療や基礎教育の変化、急性期から回復期そして在宅につながる看護の実践を学ぶことを目的に、各領域のトップランナーの皆様のご講演とディスカッションの内容と致しました。

開催日：2023年12月16日(土曜日) 13:30~17:00 Zoom オンライン研修

#### 第1部 講演

- 回復期リハビリテーション病棟に求められる役割の変化  
西広島リハビリテーション病院 院長 岡本 隆嗣
- 急性期病院におけるリハビリテーション看護の変化  
新東京病院 慢性疾患看護専門看護師 小林由紀恵
- 回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーション看護の変化  
長崎リハビリテーション病院 回復期リハビリテーション看護認定看護師 熊木 晴美
- 在宅におけるリハビリテーション看護の変化  
脳卒中と栄養ケア在宅支援 Nurture 代表 内橋 恵
- 看護基礎教育におけるリハビリテーション看護の変化  
埼玉医科大学保健医療学部 教授 栗生田友子

#### 第2部 講演者によるパネルディスカッション

当日は、看護師、介護職、理学療法士等の他職種を含め、定員を超える146名にご参加頂きました。参加者の皆さまからの質疑やパネルディスカッションでは、「生活」に着目した看護の視座、幅広い領域での看護実践の言語化や連携の課題を共有いたしました。参加者アンケートでは『あらためてリハビリテーション看護の醍醐味を感じた』『地域で暮らす患者の未来に携わっていることを意識した』等、沢山のご感想を頂戴いたしました。また、次年度開催を要望する声も多く聞かれ、今後も両団体企画ならではの研修会開催に向け努力してまいります。最後になりますが、ご多忙の中、ご参加いただいた皆さま、ご尽力いただいた両団体関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



## 福祉用具の紹介

ポータブルトイレって、便利だけれども扱いに困ることがありませんか？  
 例えば、○すぐに流せないから臭いが気になる。○誰かが汚物をトイレまで捨てに行く手間がかかる。○バケツを洗うのが大変・・・  
 それを解消できる画期的なポータブルトイレを紹介します。最新の自動ラップ式排泄処理ユニットを搭載したポータブルトイレです。







### ラップオンでどんなトイレ？

「ラップオン」とは、日本セイフティが独自に開発した「水を使わず、臭いも漏らさず、排泄物等を密封して微生物（細菌）も遮断する新しいラップシステム」のことです。このシステムを搭載したトイレは排泄物をその都度ラップ（個包装）するため、臭いや微生物（細菌）を密封。感染症の予防にも利用されています。また、「ラップオン」で排泄物を密封すれば、後処理の手間が軽減されます。



#### 自動ラップ処理の仕組み

 <b>1</b>	排泄後、作動ボタンを押すと自動ラップ処理が開始されます。	 <b>2</b>	排泄で飛び散った汚れ部分も全てフィルムが送られて巻き込めます。
 <b>3</b>	排泄物を密封するため熱圧着します。	 <b>4</b>	「ビッピビ」と終了音が鳴ると切り離されて完了です。

### 使い方は簡単！



**1. 専用凝固剤を入れる**  
 排泄物の水分を凝固させるために使用します。



**2. 作動ボタンを押す**  
 排泄後、作動ボタンを押すと自動で処理を開始します。処理終了まで約90秒かかり、リモコンにカウントダウン方式で表示されます。



**3. ラップ済み袋を取り出す**  
 終了音が鳴るとラップ処理完了です。トレーを引いて、毎回ラップ済み袋を取り出してください。

断水の続いている被災地へも届けられています。  
 消耗品として、処理袋と凝固剤を購入しなければなりません。  
 手間や臭いのことを考えると、高くはないかもしれません。  
 介護保険を使って購入ができます。

## 事務局からのお知らせ

—— メールアドレスご登録のお願い ——

- 2023 年度役員選挙について（告示）  
 定款に基づき、2023 年度役員選挙を実施します。詳細は学会 HP をご覧ください。
- メールアドレスご登録のお願い  
 学術大会や研修会などのご案内をメールマガジンでお送りしています。メールアドレスのご登録がお済みでない方は、「会員登録票」に必要事項をご記入のうえ、事務局へご提出ください。

日本リハビリテーション看護学会 HP <https://www.jrna.or.jp>





# 施設紹介

## 医療法人財団 尚温会 伊予病院

看護課長 大塚 恵



当院は、道後平野を臨む高台に位置する回復期リハビリテーション病棟218床と障害者施設等一般療養病棟72床を有する病院です。2000年10月に回復期リハビリテーション病棟60床の認可を受け、その後段階的に増床し、現在218床を有するリハビリテーション医療に特化する病院です。そして、「身体的・精神的に健やかな毎日を送ることができるよう援助し、身体機能を回復させ各種の障害を軽くすることに専念し、在宅復帰ができるよう最大限の努力をします」という病院理念のもと地域医療に貢献することを目指しています。

看護介護部では現在、回復期リハビリテーション病棟協会主催の認定看護師7名と皮膚・排泄ケア特定認定看護師1名が在籍しています。そして、排泄・褥瘡・高次脳機能障害・栄養・摂食嚥下などの専門チームを多職種で立ち上げ、専門的な視点で治療やケアに当たる担当スタッフへのアドバイスや問題解決のための介入を行っています。

また、看護師・介護士、そしてセラピストも同じフロア、同じサービスステーションに配属され、リハビリテーションも病棟内で実施しています。このことにより看護師・介護士はリハビリテーション実施状況を直接見ることができます。また、医療ソーシャルワーカー・管理栄養士も病棟に専属配置され、多職種での情報共有や退院支援に関する意見交換がいつでもできる環境にあります。

高齢化の進行に伴い、認知症や複数の疾患を有する患者さんの増加を実感することが多くなりました。このような状況の中にあっても「常に『思いやり』と『いたわり』『優しさ』を持ち、質の高い看護介護サービスを提供します」という看護介護部理念に基づいた介入を継続して実施しています。



### 編集後記

能登半島地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

旅行や学会などで、地方を訪れると必ず“耳かき”を購入します。ご当地限定のものを購入しやすく、かさばらないので気づくと50本近い!? 時々眺めて、訪れた場所を思い出しています。石川県では、金沢城公園や兼六園観光だけでなく、輪島の箸作りなども体験して“金箔の耳かき”を購入しました。

現地入りして支援されている仲間へ深謝しつつ、遠隔でもできる応援を続けていきます。

広報・会員拡大委員：Nurture 内橋 恵

